

西光寺だより

第二七号 令和三年 三月一日発行

三月のあたたかい季節となりました。

おだやかな春の日は、心までぬくめてくれるそんな気分にしてくれます。

ある新聞記事に載っていた言葉、「おはよう おかえり」。

私の家でも出かける際その言葉をよく耳にしています。まだ帰って来ていないのに、なぜ出かける時に「おかえり」を言うのか不思議に思っていたことでもあります。

「おかえり」は「お帰りなさい」の略で、「お帰りなさい」は「帰ってきなさい」の丁寧な表現だそうです。

外に出かける者に、見送る者が「おはよう おかえり」と声をかける。「いつてらっしゃい」にあたる部分が、「無事に早く帰って来てください」という意味で「おはよう おかえり」と言うのであります。出かける時から「おかえり」と声をかけるのは、「いつでもあなたが帰って来てもいい場所がここですよ」という思いが声になって現れているからであります。

家を離れている時も、ずっとよび続けられているものだから、家に帰ると「ただいま」と言う。家に帰って「おかえり」が聞こえないと不安に感じるものであります。

そう思いますと「おかえり」の声に支えられて、こうして歩み続けることができていた。どんなことがあっても受け入れてくれる世界は、不安な今を支えてくれるのです。

親鸞聖人は、南無阿弥陀仏のお念仏は私たちが称えるものだけれど、阿彌陀さまが私たちをよび続けている声として聞くものであると教えていただきました。どんなことがあっても、あなたをそのまま受け入れるぞ、悲しい時も嬉しい時も共に歩もうという願いが、南無阿弥陀仏という言葉になって届いている。

思いが言葉になって私に届く、日常の言葉に尊い見守りを感じるそんなあたたかいお言葉でありました。

合掌

◆先月の報告◆

二月十七日（土）西光寺太鼓楼にて仏教婦人会役員会が行われました。

久しぶりの皆様との顔合わせに懐かしさを感じながらの時間でありました。

新旧役員交代の方々との連絡事項の申し合わせ、事務引継ぎと関連な意見交換ができ、充実した時間となりました。

役員会での決定事項は三月初めより会員の方々の方に配布いたします。なお、会計・事業報告は年度変わりました後、各ご家庭に配布いたしますのでよろしくお願い致します。

旧役員の方々、三年間ありがとうございました。新役員の方々、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



●今月のことば●

にがびやくどう たと
『二河白道の喩え』

今年も春のお彼岸を迎えることができます。今年の彼岸の入りは三月十七日、春分の日が二十日、彼岸明けが二十三日となっています。

彼岸の行事は日本独自のものです、平安時代初期に貴族の間で始まり、江戸時代には年中行事になったと伝えられています。

親鸞聖人が七高僧のお一人として慕われた善導大師は『観経疏』を著し、信心を得て此岸から浄土に往生する様子を『二河白道の喩え』をもって示されています。

西方に向かう旅人が目の前に、忽然と二つの河があらわれます。

北には荒れ狂う水の河、南には燃えさかる火の河です。深さは底なしに深く、南北に無限に広がっています。二つの河の間には一筋の白い道があります。旅人の背後には盗賊や猛獣が現れ、殺そうとします。

引き返すこともどうすることもできないので、旅人はその白道を進もうとします。

すると、東の岸から「汝、この道を行け、そうすれば間違はなく死の難から逃れるであろう」と声が聞こえ、（お釈迦さまの教え）

西の岸から「汝、一心にためらうことなくまっすぐに来るがよい。わたしがそなたを護ろう」と聞こえました。（阿弥陀さまの本願）

二つの声を聞いてまっすぐ白道を進むと、西の岸、お浄土に辿り着くことができました。

水の河は私たちの貪愛（むさぼり）、火の河は私たちの瞋憎（いかり・にくしみ）をあらわし、また盗賊や猛獣は念仏者以外の憍慢心や懈怠心を持った人を指しています。

白道は浄土往生を願う清浄な心、つまり他力の信心をあらわしています。他力の信心をいただくことにより、娑婆（此岸）からさとり浄土（彼岸）へと往生できることをあらわしています。【下・図】

この二河白道の喩えは鎌倉・室町時代には絵図にされ、また江戸時代初期には人形芝居である古浄瑠璃にも見られ、教えをわかりやすく説くために用いられ、広く人々の間に浸透していったようでありました。

お浄土から私たちに届けられた阿弥陀さまの本願を、娑婆にいる私たちがお釈迦さまの教え・お経を通して聞くことができます。

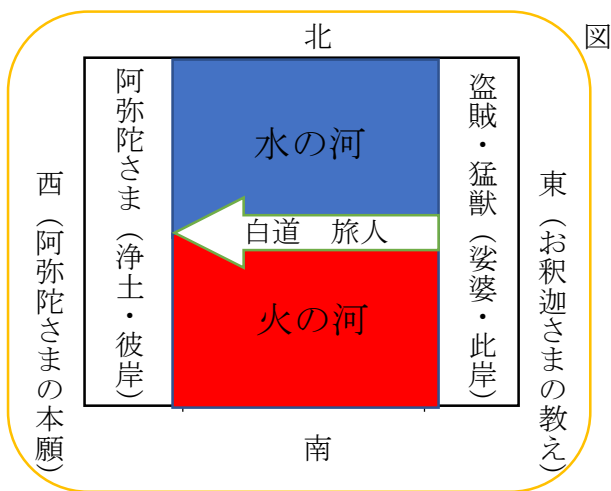
昔からの大切な教えをそのまま聞かせていただき、白道を疑うことなく進む旅人のように、お浄土への道を歩んでいきたいと、お彼岸の季節に自分ごととして思うことがあります。

◆三・四月の行事◆

・三月後半～四月初め

春季永代経法要・追弔会（執行予定）

※執行につきましては急遽総代会を開き話し合いの上、三月中旬に書面にて配布し、ご案内させていただきます。よろしくお願い致します。



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺
大阪府茨木市西河原一七二
電話 〇七二一六二二一四七九四
FAX 〇七二一六二二一九二九一
<http://www.osaka-saikouji.net/>